

なんたる星

2016. *6*
増刊



恋をしている

迂回

米田 一央

スコラブ

ナイス害

はだし

真匿名

加賀田 優子

伊舎堂 仁

短歌

いさだくてもや
短歌やめてませんでした号

【目次】

「短歌をやめる日、思い出しそうな自作の一首」後夜祭

応募歌一覧

座談会

第22回東京文学フリマレポ

編集後記

【あなたが短歌をやめる日、思い出しそうな自作の一首】応募歌一覧

○2/17〜3/1に『なんたる星』Twitterアカウントで行った募集への応募作品の一覧です。同人の自選した歌も含まれます。これらの作品から、それぞれがピックアップした歌に評を書くという企画でした。

- ① 生きてれば金婚式だと言うけれど 生きていたなら別れていたわよ
きつね
- ② 「透明はひと夏の色」と知ってから飲みほせずにいる三ツ矢サイダー
逢
- ③ 身をひいてよかった君の子の活躍を立ち飲み屋のテレビで知った
笛地静恵
- ④ 「あれこいつ短歌なんかをやってるの」(石を投げるのやめてください)
青木健一
- ☆ ⑤ まだ何かあるんじゃないかと期待するエンドロールの後の一瞬
岡本真帆 ……(はだし 選)
- ⑥ 春風に揺れるホームに夢が浮くドミノ倒しならあたしが死んでた
九条しよーこ
- ⑦ あの星は星座になれぬ悔しさをバネにしながら輝いてます
ツナマヨ
- ⑧ 降りるとき私のゴールを出発点として過ぎ行く人とぶつかる
多田なの
- ⑨ 20万使う頃にはまた入るばんさい☆安定 耳の食パン
外川菊絵
- ☆ ⑩ 土曜からストップウォッチ停め忘れ72時間経過している
大澤サトシ ……(加賀田優子 選)
- ⑪ 病院の待合室で観るテレビ 誰かを好きになつたりしない
南瑠夏
- ☆ ⑫ 時は来た月が空から降ってくる！となりの人とバグしてください
知己凜 ……(恋をしている 選)
- ⑬ いつか見たエコー写真の真似をして自分が逆子だったと気付く
前田沙耶子
- ⑭ 「私にも力があれば、」蝶々の形、虹色、結び目、ひとつ
たかはしりおこ
- ⑮ 終電車隣の人のイヤホンから異世界の人愛叫びたり
ニキタ・フユ
- ⑯ 「おしまい」は終わりではない幼子の生みだしてゆく永遠がある
雪
- ⑰ 悲しみを悲しみ抜いて来る朝の小部屋に迎えいれよ寒気団
稲本友香
- ⑱ 忘れもの取りにきた元恋人の最後の笑顔みたいな暑さ
まう
- ⑲ 母という上着を脱いでドロップをぶちまける私つまさきに♡♡ (LOVE)
なかばまち子
- ⑳ おしまいはいつも「じゃあね」と言うきみに「またね」と返す折りのように
千原こはぎ
- ㉑ 生き延びた理由もないが生きてゆく理由もなくて積もる初雪
村上ゆひら

☆ 22月を見るたびにあみーを思い出す そんな呪いをかけておいたし

23吐いた血を顔料として鮮やかな薔薇色の絵をえがいてみたい

24革命のはじまり告げるスカートが夜のブルにはためいている

25イヤホンをコートの下にくぐらせて君、ウォークマンを大事に仕舞いぬ

26「だいすき」を一生分言われている 冷凍保存出来たらいいのに

27感情も三十一文字に詰めきれず 胸も詰まって窒息死

28ふれあいはお釣りをもらう時だけでチーズ明太パン108円

29赤い馬車赤い服纏い海に入る金輪際母と呼ぶな

30もし仮に眠れない夜があると誰も知らなきやどってことない

31目がものを見るらしいあだから今まで見たくないもの見てたのか

32くずおれてしまえよ理性 サルビアの火はほろほると土にこぼれる

33転寝うたねをする子が握る手のひらにそおっと小指を差し込んでみる

34手を繋ぐことで失うどの空もこんなに広いことがおかしい

35くちびるは雨粒だけを受け止めるこれは強がる君の涙だ

36イメージは平仮名の「る」だと伝えられ会いたために連れられてゆく

37乗り越えろ それが無理なら乗り換えろ（※新宿駅はオススメしない）

38野望もない絶望もない平凡な毎日がいい布団がぬくい

39カルピスと水のベストな割合を来年はもう覚えていない

40彼女なら自殺しました春うらら排水溝に埋まるうまるように

☆ 41絶対に届かないけど絶対に届かないけど三日月を蹴る

42生まれ来る我が子の写真見てる君いのちは耳の形をしてる

☆ 43いいことがなくてもあったこととしてハーゲンダッツ食べてもいいよ

☆ 44セックスをセックスと呼ぶとセックスが調子に乗るので寂しさと呼ぶ

45だんだんと母に似てきて母になりやがてわたしは誰だろう雪

46測定の不確かささえ許容せよ やまない胸の揺らぎを愛せよ

47空っぽの水筒の音からとなごりおしいね 氷ひとかけ

48苦しさを二のカードにチャージして会うたびピツと減ればいいのに

あみー・・・(スコラブ 選)

亀山真実

のの

萩野聡

淡海わか

紫堂はじめ

ロングスローをする人

いなだ豆乃助

鶏尾ねじ

稲垣三鷹

志稲

40AnnotF0816

久哲

葛紗

増田達郎

御糸さち

蘇我ポコ

えんどうけいこ

ゆら

なべとびすこ

・・・(伊舎堂仁 選)

蓮

谷じゃこ・・・(ナイス害 選)

かたゆまちゃん・・・(まるやま 選)

柴田葵

渚さらさ

ふみ

泳二

④9 どこにでもファミリーマートがある町の憎しみのない風を見ている

シュンイチ

⑤0 出産と殺害をくり返すような毎日がすき おやすみ

白井雪路

① 日めくりの指を切られた腹いせに今日という日を殺す気でいる

寺島奈保子

② いつまでもか弱きものと思わねばわたくしなんていらなくなるから

臘月ちる

③ 誰かより2℃ほどぬるいトワノアイ はい、誓います 神様、ここです

森笛紗あや

④ 軸は稲妻だったそれでもわたし濡れる×軸を走った

荻森美帆

⑤ 沈んでく。井戸の深さを知りたくて、ふっとはなった小石のように

夏井はるあき

⑥ セキツイをうしなつたばかり もうどこへいってもすべてはただしいよ

ヨノハル

⑦ 残業はわたしにとってもサーピスで誰も知らない二人の時間

亜梨

⑧ 浅いカップ分厚いグラス汚しつつドリンクバーへと向かう 生きたい

沼尻つた子

⑨ たぶん黒。なのに知らないふりをして飲み干すあまくぬるいカフェオレ

香村かな

⑩ あの人に会わないだろうけどヒールまで血が通いだす柏駅

佐倉麻里子

⑪ マネキンと握手してふと思ひ出す掴みたかった細い手首を

たゆか

⑫ 春の死につつまれたままぼくたちは約束のない約束をする

彩華

⑬ 俺なんかどこが良いのと聞く君はわたしのどこが駄目なんだろう

泡風伊良佳

⑭ 空の色したシャツを着て会いにくるひとよわたしは雲になりたい

嶋田さくらこ

⑮ 寄り道をたたくさんしよう花を摘もう 棺いっぱいあふれるほどに

羽島かよ子

⑯ 走っても一等星に追いつけず味噌の香りが残ってる今日

カオリナマンガイ

⑰ 逃げてゆく幸など無いとため息に薄くなつてく甘いオランチョ

ルイドリツコ

⑱ 朝靄にほえる子猫がキメている薬は八百屋の裏で買えるよ

榛葉純

⑲ 不覚にも私が咲いてしまいそう つまりあなたが春だったんだね

月花

⑳ 4. # 1. 1. 3. 3. 3. 2. 2. いいからあたしの言う通り打って

深影コトハ

(1) 母さんがおなかを痛めて産んだ子はねんどでへびしか作りませんでした

伊舎堂 仁

(2) 子どもたち坂道駆けるこける笑う明日はぜんぶ受け入れられる。

井田直

(3) 踏み鳴らす千夜万夜も君のため真冬に透ける深海魚のため

さかもとふみ

(4) 留め金はきんとさみしい音をたて星を盗んだくらやみおとこ

秋山生糸

(5) 花散ればわたしの知らないひとをまた「きみ」と呼ぶのね一人で帰るわ

木原ねこ

(6) 五月雨は浄水場にも降りそそぎババ抜きをする職員ふたり

白黒つけたいさぎとて

(7) 17 も 31 も詠む僕も孤独な素数に分類される

須磨螢

・・・(迂回 選)

(8) 未来から来た男曰く引き続き抹茶が流行ると言ってそれきり

まな!

(9) 12位で「ラッキーカーラーは白です」と言われてオレは死ぬんじゃないの

ナイス害

(10) うっしっし、みたいに笑う犬いたじゃん あれのマグカップあるからね、まだ

はだし

(11) だいたいのは目をつぶれば終わりほんとは遠くで火が燃えている

加賀田優子

(12) 無人レジに向かって虚 万引きはしていません万引きはしていません

小川窓子

(13) 冬日向いつかは死んでしまうのも郵便受けに君を待つのも

川上まなみ

(14) オイスター岩石のような形相でミルクのような心を守れ

近藤いずみ

(15) オフィスとはいつか去る場所 〇〇〇の脳がサーバに接続/切断

坂中愛実

(16) 1秒のダイレイで消えたせせらぎに住む魚たちは文字という名の めちゃくちゃうるさいあしか

黒井いづみ

(17) うつくしくなくてもずっとここにいて好きな服だけ着て生きてやる

姉野もね

(18) 「女体盛りすこいきれい」のつぶやきに1ミリたくひくアイライン

伝田ちひろ

(19) 即席のコーンポタージュ流し込み一歩踏み出す真っ白な朝

宇野なずき

(20) 僕の名前だけが流れるはずだったエンドロールがまだ終わらない

あかみ

○セーターをつかんで着ればあたかく自転車を漕げばすこしすずしい

腋の下舐め子

○ゴミみたいな人生でした ゴミ箱の中であなたに会うまえのこと

空日一

○この町で石を投げると上島か肥後か南部か寺田に当たる

くつはせめ

○沈黙のなかに「虹だ」の声がありそれきり無言電話がこない

まるやま

○(誰よりも傘でありたい) 年上がポテトチップをぶちまけた床

迂回

○コード付き掃除機なんでもなんでも指輪に触れていたのだろうか

米田一央

○便箋の終わりに蕾の絵を描いて暖かな日にまた会いましょう

スコラブ

○大晦日 すべての人が(おおみそか、おおみそか)って息をしている

那須ジョン

○ひるがえる君の黄色いワンピース 世界は終わる 降る星のなか

暗黒ティラノ

○本屋でもあなたのことを考えているんだ僕は これおもしろそう

恋をしている

——2016年5月1日。第二十二回東京文学フリマにて、なんとたる星は初となる同人誌「短歌やめてください号」を発売した。ラップ、連作、小ネタ、評文、何なんだ、が掲載された本誌は△△△こと売れ、参集した同人達はなんやかんやと大団円であったという。

……しかし、読者投稿企画「短歌をやめる日に思い出しそうな自作の一首」評について、メンバーは語り足りないモヤリ を覚えていた。これはそんな気分がちいさく弾けた、5月のとある夜、とあるBarでの会話である。

参加者：伊舎堂仁（主催）、恋をしている、

加賀田優子、はだし、ナイス書、迂回

伊舎堂 今回無事に「なんとたる星 短歌やめてください号」の発刊にこぎつけまして、募集しました「短歌をやめる日思い出しそうな自作」の紙に載った歌たち、の裏バージョン？みたいなのを言い合っていく夜になります。

みなさまには事前に、「首ないし数首、「これについても話しておきたい」の歌を選んでいただいております。感じて！感じていきましよう

冊子の方はいわば正面ゲート、からの入場作ですが、なかなかどうして、裏口からの魅力的な戦士たちもおりますことでしょう！じゃあ俺から軽く触れていきます・・

◆ 伊舎堂仁

☺ 万使う頃にはまた入るばんざい☆安定 耳の食パン

外川菊絵

伊舎堂 今回#やら数字やらを入れたり、あみーさんみたいに自分の名前を入れたり、その名前自体が「腋の下舐め子」だったり、と「おちゃやらけ」グループたちも各々目立ったわけですが、その中で僕は今回のこの一首にいちばん、「やめる・日？」という哑然、をくらわされましたね。

まず、何より韻律がいいです。☆ なんざ入ってますが、☆、に到達するまでに読み手のテンションは変な言い方ですが ☆ を受け入れるテンションになってるわけです。短歌ではあんまり見ない「ばんざい」という語彙ですが、初句の「20万」というあっけらかんさから、この導きは始まっています。

そしてなにて終わるかという「耳の食パン」。微妙に語順がおかしい。でもこれも、作品の速さ、に奉仕した結果のものでしょうか。

僕自身の最近の関心として、「どうしてこの順番で言葉が出てくるのか分からない文章」に惹かれる、というものがあって例えばけつあなカラーボーイのやってる「人p.p.c」というアカウントの

天皇からもらったかき揚げを短大に投げる人

というツイートに、くらくらくるような自動生成 感、を持ってしまふ。「短大」がすごい。

アクメ屋台さん、と言う人のツイートには

今日は天気がいいから、坊主にして家の前でわさび売ろうかな

などというものもある。今回の応募した「やめる日」のやつだと？という意識が今すごいあったので、この一首がそのなかだと、条件を満たしてるかなって思います。いちばん。

◆ ナイス書

ゴミみたいな人生でした ゴミ箱の中であなたに会うまえのこと

腋の下舐め子ちゃん

ナイス書 伊舎堂が以前「一番好きな歌じゃなくても、選んでいいよ」と言ってくれたので、今回は言いたいことを言えるじゃこさんの歌を選んだんだけど好きなのはこれだったんですよね。やめる日に思い出すとき、俺は希望を込めたので、ピフォアフターのアフターが見えるこの歌がピピッときました。

伊舎堂 ああ、そういう選、のモードみたいなものも

言ってもらえると参考になりますね。

ナイス書 ハードオフで元恋人にパツタリ出くわしちやう感じですよ。ゴミじゃないゴミ。

伊舎堂 これなんか、浪花節みたいだなんて思いました。

ナイス書 あーうんうん、なんか昭和っぽい。

伊舎堂 この一首を選ぶことでなにかがバレてしまう、っていうか、自分の作品の一部、のように評を書いた。い我々が選ぶ場合にちよつと避けられがちな作風なのかなあとは思いました。

恋を こういう名前の人できちんと希望に落とし込んであるのはすごく好感持ってますね

伊舎堂 ナイス書でいうと「希望をこめたい」が見透かされる感じは照れちゃうじゃないですか、そんな感じ。

恋を 僕ならふざけるかぶつ飛ばすかしちゃうから

伊舎堂 そうなんですすよね、筆名以外、なんだったら正統派で。いまはやりの初句6音。意外と本棚に歌集あるぞこの人、って気配がありました。

ナイス書 根は真面目な人ほどそれを隠したがるのかなあ。

恋を たまにこういう希望とかハッピーハッピーした歌って僕すごくグツときて、すごいな、と思う事あります。

伊舎堂 (応募作の一覧を見て)

恋を 月丘ナイルさんとか、そういう方の歌。

伊舎堂 今回はやっぱり、メロウな読み味のものが多

かった気がするんですが

恋を 今回のではあんまり思うのはなかったんですけどね。

伊舎堂 ハッピーハッピーですか

(ナイルさんのやつ見つかからない)

恋を 素直な歌、かな。ナイルさんの今回のというより普段歌っている歌のテイストのことを言っちゃいました！

伊舎堂 あ、今回ナイルさん応募なしでしたすいません。

恋を ナイルさんとか千原こはぎさんとかの素直パワーみたいなのが好きなので。というか、女子が好きなので！！！！女子が！！！！

ナイス書 素直パワー

伊舎堂 こはぎさんそうっすね、もろに「やめる日」のお題に立ち向かうかんじで

おしまいはいつも「じゃあね」と言うきみに「またね」と返す祈りのように

千原こはぎ

伊舎堂 あと、今回強く思ったのは、既出？知ってる？

作品にはどうも筆が動かなかったんですよね。すでにマスターピース化してるこはぎさんのやつ、泡風さんの

俺なんかどこが良いのと聞く君はわたしのどこが駄目なんだろう

泡風伊良佳

伊舎堂 とかの、他所で一通りの賛辞を得た、「ではない」歌を投げ取ろうという姿勢に自然となっていきました。

恋を それはありますねー

伊舎堂 これはまあ、なんたる星の無意識的な感性も影響してるってのもあるだろうけど、良い歌にそもそも「短歌をやめる」のフックがのりにくいかなあ。敗残者たちの歌が多めの回でした。よし次！

◆ 迂回

手を繋ぐことで失うどの空もこんなに広いことがおかし

久哲

セキツイをうしなつたほくら もうどこへいってもすべてはたたいよ

ヨノハル

迂回 まず次席じゃないけど準備補、というところから。改めてピックアップしてた歌を並べて見てみると今回僕は「でかいところの把握」がある歌をやめる日。一首として見たかったようで、この二首がそのへん

に引っかけました。

「手を繋ぐ」は繋いだ手の至近と空という茫洋さ、かつどちらもボエムワードとしての素材感の強さがあるところで比較がされているんだけど、その視点の上げ下げ・ズームインズームアウトと、「おかし」の「可笑しい」とも「釈然としない」の意味ともとれる曖昧なところに、この世界を見切ったような少しの寂しさを感じました。

「セキツイを」は漢字のなさと「セキツイ」のみカタカナになってる異物感、それすら失ってすべて平仮名になったのは原初みたいなものへの回帰、と、いつかそのひらがなも失いそうな気配、前提を失ったときにおそらく全て真になる予感があつて、まあでもこの人だってなかなかこういう漢字混じりの世界からは逃れられないんだろうけれど、そういう世界の予感実感がある・あつたんだろうな」と。

で、逆選がひとつあつて、単に書きたいだけでもあるんですが

うっしっし、みたいに笑う犬いたじゃん あれのマグカップあるからね、まだ

はだし

迂回 はだしですね。ちょっとこのあの「笑う犬」に対するちよつどの記憶の薄れ方が世代を縛るふうになつちやうのがあれなのかも知れど、傑作と思います。完全に口語、と思わせて定型の上句、引き続き口語な

んだけど破れてる下句。「まだ」の締めが新しい助動詞

です。すくらしいの力強さあつて、事象の把握の仕方の鮮やかさの短歌ぽさとか、ある種はだしのマイルストーンとしての歌にはなりうるのかもしれない、と思つたけど、やめる日の歌ではないかもなりませんでした。

伊舎堂 手を繋ぐことで とかはやっぱり、笹井さん木下佑介さん土岐さん以降の「薄さイズム」っていうか、そういう流れで出てきた歌って気がします

リーダーピリテイの高さが、語彙の貧困さとも散文的な後味にもつながらず、「ここには書かれなかった言葉たち」の匂わせ、に働いてるっていうか。うん、良い歌つすね、

なんだろう、「短歌やめる日」の応募作とかから一回離れて考えてみてもこのごろの短歌の、「愚かしさ」をまとつたイノセンス、な作中主体が勝ちやすい傾向はより強めになってるかなあと思います。そんな中での

沈黙のなかに「虹だ」の声があり それきり無言電話がこない

まるやま

伊舎堂 とか

くずおれてしまえよ理性 サルビアの火はほろほろと土にこぼれる

志稲

伊舎堂 の理知的、な制御の効いた歌はわりを食ってかなあど個人的には思いました。

◆ 加賀田優子

加賀田 今回2つ選んで、その中でストップウォッチ、を選んだんですが、もうひとつは

セーターをつかんで着ればあたたかく自転車を漕げばすこしすずしい

あかみ

加賀田 で、どうやら私の「やめる」イメージは「生活のなかでフェイドアウト」だったようだど今気づきました。

日常の、短歌にしなかったら一瞬でおわるな、てと

伊舎堂 うんうん。

加賀田 が、やめる日に思い浮かぶのが、すごく短歌してるってかんじがあるなと思って。

伊舎堂 ストップウォッチの「秒数」に象徴的ですけど、カウントしなかったらそもそも可視化されないものですし、あたたかい↓すずしい の体感、もいちいち言語化しないっちゃあしれないものですから、モードとしては一貫してる気はしますね。

恋を 確かにこれが「やめる日」の一首っていうのは

すごく絵になる感じ有るな。邦画の良さみたいだな。

伊舎堂 登場する商品がすごく庶民の持ちもの、ですもんね。

恋を「つかんで」のところとか、すごくその「一瞬で終わるな」の感じが出ててヤベえっす。

加賀田 そうなんですよね、なんか、ちょっとちゃんど画になるような「やめる日」を想像できるものをとろうとしてた気がします。自分が。

伊舎堂 そう・・考えていくと、まな！さんとかへはやっぱり今回は食指が動かない流れになりますよね・・この言い方好かんけど「大喜利短歌」の評の得にくさ、

恋を そうすね「作った」感じの短歌より「出た」感じの短歌の方がやめる日っぽいのかな。

ふれあいはお釣りをもらう時だけでチーズ明太パン
108円

ロングスローをする人

未来から来た男曰く引き続き抹茶が流行ると言う
てそれきり

まな！

ナイス害 大喜利の人の、なんか、分かる

伊舎堂 ナイス害の希望、にも加子さんの等身大なワタクシのワンシーン、にも迂回さんの広さ、にも僕の切実、にも、ほとんどの網から零れ落ちちゃう。

加賀田 抹茶！とは思ったんですが、今回の気持ちだとこぼれていきましたね…

迂回 マイベस्ट的なものに見えてそれだと…ですね
伊舎堂 なんとたる星大賞、のときとはわりと好対称な選歌結果になった、という。大賞受賞者へからめた言及。

(誰よりも傘でありたい)年上がポテトチップをぶち
まけた床

迂回

加賀田 でも、選んでてこれを見たときなんだろう、すごいフェチっぽいところを出してきている方がいる！と思ってる！

迂回 フェチ

加賀田 無記名で選んでたので後で迂回さんだった！となったやつですが

伊舎堂 これ、つてのはまな！さんや迂回さん？

加賀田 えーと迂回さん、迂回さんのみです

伊舎堂 ほおほお

フェチ・か、言葉の選択、にですかね。

加賀田 ですかね…なんか願望というか、ふつうのとき読んでたらわらっちゃう、に重点がいくんですが、「やめる日」に出したということは、心の奥のどこにある願いのかなーという

伊舎堂 (そっか、これ「やめる日」の短歌で出てきてるんですよね！)

加賀田 そうなんですよ！最後のときなんですよ！だから、切実さ、個人的な切実さが、笑いを含んだ感じで見られることにそういう方向の「やめる日」もあるなと気づかされて、悩みました。

伊舎堂 でも「やめる日」になんとたる星の人の歌もあるってのはわりと大事で

加賀田さんの察知した「切実」におもしろ、みたいな成分も嗅ぎ取れるってのは「なんとたる星」の今後の動き方の推進力になるかなって思いますね。あとで見直してみよう。

◆ はだし

五月雨は浄水場にも降りそそぎババ抜きをする職員ふたり

白黒つけたいカフェオーレ

伊舎堂 これもまたはだしさんっぽいすね！

登場人物の背中が丸まってる感じ

はだし すかね。理由は冊子ではやめない方へ行ったけど、やめるの方へいくならこれでした。やめるの自分のイメージはこれ以降一生しない、で。と思って読みつつ考えてたらなんかわからなくなってる病んできて、したら「人」が見えるみたいな匂いする短歌がぜんぶ嫌になりました。短歌内に自分置きっぱなしじゃん、こいつ絶対やめねえっしょ、中断じゃん、となってきた。のときにばらばら応募作みててこの歌とか あと

未来から来た男曰く引き続き抹茶が流行ると言うてそれきり

まな!

伊舎堂 (なるほど、ここで大喜利系の需要が持ち上がるわけですね・・!)

はだし とかはなんというか、スポットライトに私はいつてないというか。いても後頭部だけ、みたいな感じが自分としては。

伊舎堂 少なくともここからまな!さんの苦悩とか葛藤はみえないですもんね。

はだし その漫画の切り抜き(でいいのかな)つぼさが、なんかたまたま面白いものとか良いものをみつけて短歌にしたけど、次の瞬間には「楽器かっこいい、ギターしよ」とか別の趣味に飛び込めそうというか、そういう雰囲気があつて。短歌内にわりと足も突っ込んでないし、ちゃんとやめれそうでは、と思つたつす。軽やかに。

恋を ちゃんとやめられるかどうかという視点はあんまりなかったな。(※1)

伊舎堂 すべてが終わった後の、感はたしかにそこはかとなくするんですけどね。世界の終わりの浄水場。

※1 恋をしている「やめようと思つている」ページ参照

恋を がびーん!

伊舎堂 リーダーが「やめない」を言つたという、良

い終わりでした。なにも仕組んでないのそつなつた・

加賀田 次のなにかにいく、いうことを考えてなかつたので、おとお、そうかー!つて今なつてます

恋を 恋をしているの往生際の悪さばねえ

でも、カフェオーレさんとかは普段詠まれている歌もそうだけど「短歌に寄りかかり過ぎていないというか純粹に「楽しんでる」感じがあつて、軽やかにやめそうつていうのは歌からも確かに伝わるかも。

ナイス害 はだしの選考基準、健康的だと思つう。

伊舎堂 浄水場、の歌が「やめる」側、ということの内訳をもうちょっと聞いてもいいですか?

はだし ありや、ちがうすかね。漫画でいうと雨の大ゴマからちつさいババ抜きのコマになつてく台詞なしだけのページつぼい感じがあつて

主人公あるやつなのにこれで次週かよ、みたいな

伊舎堂 あ、なるほど。抹茶とババ抜き、は両方後頭部系なんですな。

加賀田 短歌の次はないけど、他の次はある、というのが軽やかな

伊舎堂 なるほど、なるほど。内訳、つていうか言つてもらつてた感じでしたな。追いつきました・。

迂回 短歌であそんでいる感じにやめるの気配があるのか

伊舎堂 遊んでる、テイストは「片足しか突っ込んでない」つていう印象に無理はないかなあと思ついます。

ナイス害と僕のページにはわりと露骨に短歌の「次」が書かれてますね。

はだし 伝わってますかね

伊舎堂 伝わり切りましたね

はだし よかつた

伊舎堂 うん、なんか結果として選考モードはまんべんなく散らばつてたことが分かつてよかつたです。

◆ スコアブ (Extra)

——ここで残念ながら都合でBaに参加できなかったスコアブからの後日の語り を掲載する。

*

しみつたれた人生だから楽しいのかもしれない(という思いつき)

スコアブ

五月雨は浄水場にも降りそそぎババ抜きをする職員ふたり

白黒つけたいカフェオーレ

視点を変えることによる気付き。五月雨は最上川に流れるけれど、その水は浄水場にも流れ込むわけで、その浄水場ではおおよそ風流とは言えないことをしている。花札ならあるいはとも思えど……似たようなものか。浄水場の仕事はそんなに暇なものかは知らないし、想像で描かれているような気もするけれど、なんだか

そんな光景が実際にありそうに思えるし、五月雨のしとしとと降るイメージとも妙にマッチしている気がします。……個人的な好みのお話で申し訳ないが、こういう「しみつたれ感」の出ている歌は非常に好きです。

乗り越えろ それが無理なら乗り換えろ(※新宿駅はオススメしない)

御糸さち

困難に立ち向かう上で、という喩え話だと思いますが、軽い語り口が心地よく響きます。新宿駅は乗り換えが多くてややこしいですから、生き方を変えるつもりが人生に迷ってしまったなどということもありそうですね。地下などに潜ったら大変なことになりそうです。これが大阪だと、例えば梅田駅はオススメしない感じなのかな。皆が身近な駅に置き換えて想像したら楽しそうですね。このぐらいの気楽さで生きられたら、何事も楽しい人生のような気がします。

日めくり指を切られた腹いせに今日という日を殺す気でいる

寺島奈保子

殺す、という強い言葉をどう捉えるか。殺すなんて簡単に言うてはいけないけれど、心の中では多くの人が咳いていそうな言葉。そしてその多くは、本当に殺したいなどとは思っていなさそうな言葉。自分の読んだ

感じでは、強い意志で終わらせるといふぐらいの意味合いかな。その強い言葉に吐き出すことで、腹の立つ気持ちを葬っていくような、そんな印象を受けました。キレル人間のように、実のところメンタルは強いのではないかという気がします。今日って、殺さなくても確実に死ぬし、そしてすぐに新しい今日が生まれるんですよね。そんな構図も面白いなど。

特に共通する訳でもない三首を挙げてみました。歌を見比べて思うのは、皆なんとなく世間に馴染めてなさそうだな。ある者はマイペースに生きることを選び、ある者は別の道を選び、ある者は今の状況に小さく抗ってみる。決意表明とまでいくと大げさなんだけど、自分のスタンスを再確認するような、そういう歌たちなのではないかなと感じました。短歌をやめる日になってこれらを思い出すのは、短歌をやめようがやめまいが結局自分変わらないし、やめてもこれらのことを思うのだろうという意識の表れなのかもと妄想してみたりしました。

*

伊舎堂 それでは以上を持ちまして

恋を っっておーーーーーい!!!!!!

いるいるいる!!!!!!

伊舎堂 「短歌を」 あー よかった・・

恋を 恋をしているが、おりますやん!!!!

伊舎堂 ダイコンつかまされたらどうしようって

恋を 冗談きついでくくくく

迂回 かいテロップ出ましたね

加賀田 出ましたねー

伊舎堂 では最後にいただきましょう。恋をしているさんお願いします。ちよっとロム専になります。

◆ 恋をしている

恋を はいはいはい！馬力最高速度関係修復不可能要塞恋をしているです!!!!!!

はだし わーわー

恋を 自分の歌を出して語るといふボケを考えていたんですが、伊舎堂さんのおかげでもう一ボケでできたので

手短に!!!!

うつくしくなくてもずっとここにいて好きな服だけ着て生きてやる

黒井いづみ

恋を 恋をしていると同じく往生際が悪い方を選出してまいりました!!

これは最初評を書いて出そうと思っていたんですがその、これを書くときに使用するある単語が誌面に載ると女性に嫌われる可能性があるなと思ってやめた

いう経緯があります

何度も言っていますが僕は女性に気に入られるためだけに短歌をやっているのでその辺敏感なお年頃です！

で、僕はブスが好きなんです

伊舎堂 安西先生「ほっほっほ」

ナイス害 w

恋を ブスがかわいいということではなくてですね。

これは矛盾言葉になっちゃうから気をつけてね。

ブスの精神性が好きというか

伊舎堂 こいつすごいな

恋を よく言うブスは性格もブスになるという

ナイス害 叙述トリック・・・くるで

恋を このね生き地獄みたいなシステムがかわいいと思ってしまうタチでして

この歌は僕が今まで見てきた中でも特に「ブスな歌」って感じがしてめちゃくちゃイイなって思っちゃったんですよね。

このブスの厚かましさといったらたらないですよ！！そしてこれを短歌やめる日に思い出すってのがまた「私はブスだけど、めんどいからブスを辞める気はないし、お前らが何といおうと生き続けしまいには、何か色んな意味で殺す」というメッセージみたいなのを感じ取ってかなり笑ってしまったので

というような評を書きたいもとい「言及をしたく」なったので 気になった歌でした！

みんなのように「やめる観」みたいなのがなくて申

し訳アリの巢！！よろしこ！！！！

伊舎堂 ありがとう！

アース・ミュージック&エコロジーのボディコピーというルック+宮崎あおいの声 で言わなきや成立しないような言葉、をそのままの「わたくし」で言う、っていう無理感を見せられちゃうと、なんとかして読み手でその差分を埋めようとしちゃうんですよね。そのスペースに「笑っちゃう」や「感動」が入り込む、っていうからくりなのかな、とは思いました
迂回 読む場によってはだけどがんばるキラキラに見えてしまいそうだけど地獄、とまでいかずともひどい沼くらいのとろろを感じるのがイイ読み方ですね
恋を あと、深読みするなら「上手い短歌ができなくても私は短歌を続けます」というここに至る逆宣言みたいなにも採れるのかな。

月が空から降ってくる！となりの人とバグしてください
さい

知己凜

伊舎堂 今回 恋をさんが正式に選んだこの歌との連続性みたいなものもみんな考えていきたいです。
恋を ひねくれてる人の歌ばっかり取った印象が強いっすね

伊舎堂 キーワード出ましたね、「ひどい沼」からの「往実際の悪さ」・・・

ナイス害 ザリガニ、しか思いつかないな

加賀田 生きてやる、が殺す、にやっぱりつながるんですね

迂回 攻撃性を読み取ってるのかな

短歌の！上手さ！あぁー！あぁー！！！！という

伊舎堂 たしかにオラオラですね、どれも

はだし 攻撃されたい

恋を でも、あとあと僕が選んだ知己凜さんのツイッタ―とか見たら全然ひねくれてそうではなかったのが僕が勝手に「こいつアレだな」みたいに思ってしまっただけのフシがあります……

加賀田 短歌にしようとするのでちやう部分があるのかもツイッタ―のときと短歌のときと、なにかきりかわったりとか

伊舎堂 (僕は「バグしてください」の件はいまだに煙につつまれたような感じですよ)

恋を 煙とは！？

伊舎堂 短歌モードではない知己さんや黒井さんが、短歌をしていないときの恋をしているモードだとはとうてい(僕は)思えないんですが、恋をしているが恋をしているの歌を選んだ、みたいな体裁にはなったんだらうなああと編集してて僕は思ったんですね・・・でも、その恋をしている、自身の歌は今回

本屋でもあなたのことを考えているんだ僕は これおもしろそう

恋をしている

伊舎堂 ・ ・ という、なんか絶妙に怖い 恋をしている
平常運転 状態！つてのが、なんか意味深に感じ
ました。

*

恋を これでも僕自分の歌を選ぶときもそうなんです
が自分の本質に近い歌みたいな基準で選んだところがあつて「あなたの事を考えているんだ」つて言いながらその実自分の事ばかり考えているクズ が僕なので

「ついで」「短歌をやめる日」を見つめなおした夜は更けていった。平和島に現れなかつた恋をしているは、誌面で「短歌はやめません……」と絶叫した。それはこの夜にもいつとき、響いたのかもしれない。

それに近いような近づいていけるような歌が必然的に「言及したい」歌になった感じではありましたね。

選をしながら自分を見つける作業みたいになつてしまつたかも

迂回 恋をの歌、「考えている僕」の否定、という構図がはだしの今回の基準と対照できておもしろい。「あなたを考えている自分」を上手に読めた短歌』を否定したかつたという動き。

伊舎堂 どこまでいっても技巧的 と暴力的 の終わりになきバトルなのかな・ ・

率直すぎるくらい率直な評+前日譚をありがとうございます
ございました！恋をさん

恋を これ黒井さんとかを貶めているように聞こえたら本当にすみません。あくまで歌の中の人のことを言っているだけです。恋をしているは女性に嫌われたくないので。本当にすみませんでした。

伊舎堂 たしかに書き方注意ですねこれ、

でもまあ、(何言ってるんだらうこの人)という外からの目線も失っていない歌かなとは思います。

第22回東京文学フリーマーケット レポート

BY なんたる星

はやい乗り物の窓から、流通センター、などとかかれた建物がうしろに流れていくのが見えた。

「のりすごしました。遅れます」をなんたる星、のところに打ち込みながら、この、いつもの文字のやりとりが、今日は一部、肉声になって返ってくるんだなあとやたらに緊張していた。

「短歌やめてください」についてのもろもろをつくっていたときの記憶が、だいぶおぼろげだ。

忘れてしまった、のではなくて、なんだか「やめてください」の「やめてください」という響きに、がつんがつんぺこんぺこんぼしぼしがりがりふわふわつとやられてしまったところがあって、そのときに舞いあがった砂埃でかすんでいる感じ、なのである。

砂漠に穴をあけようとしていたような気がする。

一度のりかえて正しい駅にたどりつき、流通センターにくっついているコンビニの前まで走った。

おっ、よっ、ほっ、と、もう集まっていた星の人々が手を振ってくれる。

このあたりから、緊張くうれしい!たのしい!大好き! 状態に突入しているので、転んでも痛みを感じなくなっていたと思う。

穴をあけて、いつもそこにどンドン潜っていく。

それがもう正直全裸でシビドゥパツルルルというぐらいくるしいのでやめたい、と、むかし、ともだちに相談したことがあった。

ともだちはほんとうにやさしい声で言ってくれた。

「もうじゅうぶんやってるんだから、考えるのをやめたらいいんじゃない」

「ここにこのダンボールがあるということは、まだだれも製本されたものをみてないんじゃないか」と言って、みんなでダンボールを開けたら本になっていた。

伊舎堂さんの用意してくれたちいさい椅子にかわりばんこに座ったり、用意してくれたホワイトボードではじめての大喜利をしたり、売ったり、買ってもらったり、おやつをいただいたり、お話ししたり、飴を勧めたり、飴をもらってもらったり、していたら時間がびゅんびゅん過ぎた。

米田さんや、恋をしているさんが会場のどこかにいてもおかしくないというか、もう、いる、の気持ちでお金のはいったジップロックの表面を触っていた。

ともだちのことばで気づいた。

「水を火にかけるとお湯になるのって、なんでなんだろう。あ、そうか、火ってあったかいんだ!!!!」みたいな、あたりあたりあつたまりまへのことに気づけない、ということはいつものはなしで、そのときもそれだったのだが、結局。

私はそうやって、どンドン潜りたい、をやっている。ということだった。

途中、Tommy february6がわからなくて調べた。

わかってもどうしようもないけれど、わかっただけでちよっと楽、というところがあって、それをうまく活用してやっていくのがよいのであろう、と、その日はともだちとの通話を切ったのだった。

いつもそのちよっと楽、にたどりつきたくて、似たような、でも違ういばらの道とか、マカロンの道とか、たくわんの道とかを通ることになる、というそれだけのだろう。

朝は駅を乗り過ごしたが、夕方は帰りの便を間違えていたので、文学フリマの終了時刻よりはやく会場を出た。

大量の飴とか、撤収とかをみんなに託して駅に向かった。

そのあとに打ち上げがあったらしく、うらやましが振り切れたけれど、どうでしたか! ?と後日みんなにきいたら、それぞれ居酒屋で食べたメニューを覚えてもらえてたのしかった。

はやい乗り物は帰りもはやい。

まだあかるい窓の外をみながら、あ、もっと写真撮ればよかったのかな、などなどを思い、また今度、について考えた。

また今度、があったらうれしい、でバグる機会をつくりたいな、と。でも、また今度、がなくても、ちがうまた今度、をしたい、と思った。

駅に降りると、降りる駅を間違えたことに気づいた。

とりあえず私は壁に寄って、かばんから携帯を探した。

「短歌やめてください」

——ああ、俺に言っているのかこれは。

本当のところは知らない。そんなことあるかもしれないし、ないかもしれない。大体において、短歌を詠むような人間——もっと広く言えば、なんらかの創作をするような人間——というものは、自身を強く意識しているのであるから、なにかネガティブな言葉を自分へのもので受け留めるなどということは、短歌詠みにとってはよくあることかもしれない。……つまりは「短歌やめてください」という言葉を聞いて「俺、短歌やめたほうがいいかもしれない」と思うのは自然なことといえば自然なことだ……と思う。

そんなことを思ってみたが、それよりも心の内では、今このタイミングでローソンの納豆巻きが食べたいという、なんの脈絡もない思い付きに支配されつつある。「短歌やめてください」が一ならば、「納豆巻き食べたい」が三ぐらい。なんならイメージの中ではパソコンのキーボードに納豆巻きの納豆をこぼしているぐらいだ。

そんな「納豆巻き食べたい」……もとい「短歌やめてください」号を引っ提げて、なんたる星のメンバーが東京文フリの会場に集まったのが、五月の初頭のこと。

同人誌や手工芸のイベントの会場に共通して思うのは、なんとなく世の流行っているものから離れた場所にあるということ。単純な話、イベント会場の立地として都市の中心地から離れた場所が適していると言えばそれまでなのだが、この、丁度良い具合に「隔離されている」感じというのが、イベントの雰囲気として必要なかもしれないなどと思う。

世間の中に浮島のように出来た文フリという集まり。なんたる星は中でもさらに浮いた集団になるのではないかという予感がしていて、実際にブースに着いてみるとそれが実感として感じられていくのが面白く、それだけでも来て良かった。

別に、他の同人の方々と比べてどうこうする意図は全くないが、なんたる星はなんというか文フリに「そぐわない」感じがして、それはネットを主な活動場所とする特殊性というものもあるかもしれないけれど、なんたる星は……というか少なくとも俺は、そのちょっとした居心地の悪さにむしろ安堵を覚えたというのが正直なところであった。

以下、メモ

伊舎堂カレーの米パサパサ／ナイス害の低姿勢／餡が多い／さのまるが多い／あみーさんすいません／便利なのかよくわからない道具（しかも後半に出る）／ガルマン歌会って言葉の響きすごい／客いじりで大怪我／「迂回さん男性だったんだ」／恋をしているが会場に来てる疑惑／まず餡を勧める／結局俺たちは男根に負けた

飴玉の唄

迂回

東京には前日入りして、それほど忙しい用事もなかった、でかい公園のそばなどを散歩していた。東京はでかいビルとでかい公園を同時に擁しており更に猫もいる。

その日はそれから大喜利のライブを見に行った。大喜利のライブというのはつまり薄暗い劇場で大人たちがお題に殺到してボケる様を見るという興業なのだけど、そこでBUMP OF CHICKENになった虎猫さん(※1)が爆笑をかっさらっていた。「空間」というのはたまに人間に対してひじょうにおおらかになるので、人はBUMP OF CHICKENになりながら大喜利になることができる。ずるい。おもしろかった。

ひとまずの目的のひとつは果たしたので翌日にそなえて静かに寝よう、と思い宿のそばのスーパーでご飯を選んでみると、店内に『天体観測』が流れていて僕はもう目を伏せて唇を結ぶしかなく、全然関係ないけど文フリはとんでもないハードルを設定されたなと思った。

*

文フリに行くためにはモノレールに乗ることができる。重力に頼らずガツとレールを掴むかっこよさを持っているのに、その手つきを見せない技術のあるやつだ。景色の中にふと芦毛の馬がいて、馬は超然としているのにかわいい。乗り物としてはめっちゃ重力に頼っているけどたてがみがある。

たくさん重そうな荷物を転がす人たちに紛れて会場に着く。うろついてみるけれど、なんたる星はツイッターのDMがへたくそなので合流できそうできな。建物に入ったか出たりする。

大人のプライドを賭けて合流に成功し、うろろとブースへ。同人誌発刊企画の発案・主催であり、割付け・印刷依頼・文フリ申し込み・その後の在庫管理などの面倒ごとを一手に担った伊舎堂仁(ほんとにほんとにありがとう)はコンビニでコピーをとっており、それを差し置いて会場直送だったと思しき本誌の入ったダンボールを開くはナイス害・スコラブ・加賀田優子・迂回の4人であった。モノになっている～と先にひとしきりテンションを上げていた。あれと、あとブースの設営みたいなふつつした作業が「純・感情」としてはピークだったと思う。しれっと米田一央が来るんじゃないか。と少し期待していたのだけれど、最後まで来なかったのが残念だった。

*

最中はいろんな人といろんな文字を見ていて、もしくは見ていなかった。伊舎堂の持ってきたホワイトボード(大喜利であそぶ用)が頼もしい。見渡すとみんなが本を眺めたり話したりして、買うつもりの本と買うかわからない本と売りたい本が置いてある。合流したはだしが小さい椅子に座っている。恋をしているがツイッターで恋をしているをしている。持ってきたフリベを飴入れの箱に加工して、3種類ぐらいの飴を入れて配った。

このあと読んでもらえる可能性が高めの自分たちの本、を自分でも何冊か手渡しつつ、手渡したあと「もう好きにしてくれ」の気持ちを覚えて、その辺はいつものパパーの公開のときとあまり変わらない。ただ持って、手渡した重さ、はしばらく手に残った。

「短歌やめてください」のおもたさはその場ではあまり意識していなかった。濱松哲朗さんがタイトルで爆笑してくれて、ああなんだかイイなと思ったのを覚えている。短歌やめてください という本を平積みにした、コスプレもしていないのに異様(だったらしい)な集団。おかげで"短歌やめろ"の言葉がいったんお祭りに溶けこめていたのなら幸いだったのかもしれない。加賀田とかもあとでツイートしていた(※2)けれど、けっこうしんどい言葉なので。

*

龍翔さんに「はだしの『すみませんでした』めっちゃふあぼってますよね」と伝えて自分の方がヤバイ奴になってしまった。

*

「短歌やめてください」は、読者投稿企画以前にメンバーにふりかかる言葉だった。おもしろそうとは言ったものの、これを前提にたとえば連作をつくることは、つくった以後に何かが変わらなければうそになる。と僕は思っていた。それはもしかしたらほんとに短歌をやめるという変化だったかもしれないけれど今のところその気配はなくて、ただ何かの行き止まり、または曲り道、があるような空気の流れの変化、を指先が濡れているときだけ感じることができる気がする。

*

『ハムスターを壁にバンバンぶつける』に並ぶ勇気が出なかった。

*

これも加賀田のツイートとかぶるけれど、できあがった同人誌は読み返してみればそれほど悲壮感はなく、勝手に追い詰められたやつらの悪あがきと思ふげけ、「短歌」と「やめる」と「短歌をやめる」に殴りかかった軌跡があって、これはこれでいつもの感じだったのかもしれない。殴る拳の握り方を、振りかぶり方を、背筋のピクつきを見るには絶妙なステージングだった、とも言える。

*

やった大喜利で自分のその日イチは『こんな文フリは嫌だ』『藤崎竜が死んでる』だった。

*

無事帰るまでが文フリなら片付けたところも無論文フリですとばかりに夕方になるとぎわざわとし始め、みんなで机や椅子をたたんで重ねる。「お片

づけ」という感じがして結構良い。加賀田が途中で離脱してしまっていたけれど、残りみんなで打ち上げをした。パクチー。馬刺し。マキシマムポテト。酔ってる最中にでかいキャリーバッグを開いて売上やらを確認し、やいのやいのとしていた。意外かどうか、あまりやいのやいのしない集団なので新鮮だった。みんながそれぞれになんたる星を考えていて、別にそれは一致しなくてもいいんだろうなと思った。

*

『男根供養』は一冊、結社の経費で購入された。

*

はだしが抜けて、その次に僕が帰った。品川駅そばで飲んでいただけで、なんたる星と品川の似つかわしくなさすごい。去年ほどは重たくないかばんを背負って新幹線に乗る。車中『稀風社の貢献』をじっと読んで、ちょうど読みきった頃に地元に着いた。

※1 大喜利に生かされている大喜利の人

※2 <https://twitter.com/Occak/status/728227812981673985>

文フリの日のこと

はだし

ハイチュウをね、2パック買っていったんです。もしかしたらおやつ切れちゃうかもと思って。まあそのハイチュウは東京の空気に触れることなく、我が地元へと帰還したわけなんですけれども。おまけに余った飴までもらっちゃって。あれお得だなんていう、そんなことを思ったり。

理由は省きますけれども。11時に開始して、それとともに会場入りする人たちの背中を眺めながら、なんで自分は遅刻をかましてしまったのか、となりました。だからブースあれこれについては語れないというか。たぶん出店組からすれば一番の盛り上がりどころだと思うんですけれども。さみしい。あるとすれば流通センター前で(ルイド)リツコさんらしき後ろ姿をみつけて、バレて遅刻トークなどしたくないな、とちょっと離れて歩いたことなどしかないわけで。夏祭りがよ。さて、入場してからのことを。

これは、本当に現場入ってから思い出したんですけど、めっちゃ人見知り。会場を見回らせてもらえたあと、店番の椅子に腰かけたんですが、前のブースの象短歌会の方々だったかな、目が合うから外して時間あけて前むいたらまた目が合ってしまった。だから挙動不審のスタートでした。

ブースにはたくさんの方に来ていただけて。自分の覚えている範囲なので間違いや漏れなどあるかもですが。小向さんのサインに貢献できたり、龍翔さんおススメの味噌を味わえたり、濱松さんにタイトルを気に入って？頂けたり、服部さんとすこしですが話せたり、「恋さんと会った」発言の本多さん、メンバーのおしゃべり・大喜利、ifボックスの奇跡、等々。

そもそも売る側としての経験や、もっと滲ませれば東京にいた、ということがもう自分には「ハレ」なので、楽しい時間でした。

短歌の場への初潜入(いつかの短歌プロムナード)から思っていたんですけど、同窓会にいる気持ちになります。もちろん作品を届ける場ではありますが、会うこともなかなか重要視されているというか。まあ全国から集まりますもんね。そういう背景もあってか、コミュニケーションがたっぷりだなあと。それは他のジャンルと比べても目立っていたのでは、って(ぜんぶを見たわけではないけれど)気がします。テーブルをはさんでがっつき喋っている人々、や4~5人で集まって話す、をけっこうブースから見かけました。同時に、それをしない/うまくできない側に起こりそうな危機の片鱗を感じることも。どちらかというと「側」なので。

さてさて、たのしい文フリ後、せっかくの居酒屋なのに電車の時間あるわ駅から車に乗らなきゃいけないわで、お茶のみの帰宅だったのは残念でした。次になにかあるなら酔いたい。で、最寄り駅についたんですが、その有料駐車場が静かで。あしたは平日だからかな、と思いつつ東京とのギャップにしんみりしちゃって。帰るか、と車に乗り込んで駐車券を通そうとしたら、運転席の窓開かなくてウケました。ありがとう窓。「ケ」のモードになって、降りて駐車券入れました。後ろ、いなくてよかったー。

キャッパ巻き

ナイス害

山形を発った夜行バスは、新宿に4:50に着きやがった。見上げた5月1日の朝はとても優しくたったのだけどね。築地まで行き、寿司ざんまいで外人のバックパッカーと並んで炙り三貫を食べた。「炙ってんなー！」と思った。思ったというか、店員に直接言った。同時に寿司ざんまいの店員の真似を必死で習得した。文フリで披露したかったから。「へえ〜い、キャッパ(かっぱ)巻き〜」「お〜け〜い、ヒラさん楽勝〜」でもそれを誰かに見せることはなかったの。

そのせいもあって、口口口(くちろろ)のTOKYOをiPodでずっとずっとリピートしていた。

窓の外を次々と通り過ぎるいろんな景色を
僕はなにも手に入れられない
そんなことを思いながら
僕はきみに会いに行く
それで少し救われる

の歌詞が、モノレールの1番カーブする時に流れてきて少し泣いた。
救われたかったんだ、俺は。
きみは、きみの事。

会場の前でなんたる星のメンバーが1人づつ増えていく演出はすごく良かったよ。いるんだ、短歌の神様って、って。販売の仕事長くやっていたり、野外フェスでアサラトの販売をしていたりするので、設営などは楽しくできた。もうこの時点で俺は【男根供養】のPOPを見つけて独り興奮していたから、大喜利にはあんまり参加してなかったのだけれど、「こんな龍翔さんは嫌だ」のお題が出てみんなボケたとき、龍翔さんが全然笑ってなかったの1番面白かったな。

会場の外で、鼻屑にしてもらってるいくらたんのメンバーのお子さん達とアサラトで遊んでたら、お子さんがアサラトを道端に落としてきちゃって一瞬紛失する、っていう事件があったんだけど、後で他の歌人さんから「アサラトが道端に落ちてたので、ナイス害さん居るのかなと思いました」と言われ、アサラト=ナイス害、が流通センターに浸透してるんだと嬉しくなった。(そこでお礼の寿司ざんまいのモノマネ披露しろっ！と今では後悔している)巻頭を飾らせてもらったラップも、実は家でフリ付きで練習していた。披露しなかったけど。リリックの所々ちよつと半角でスペース空いてるでしょ？そこが区切るところで、敢えて、です。

男根供養の売り子さん達になんたる害を買ってもらって、あ、これいつかコラボあるか！とドキドキした。腋の下舐め子ちゃんが実在していて惚れそうになった。雪舟さんの実妹のこぼやし雪のさんとゆっくりお話ができて、老女ヌードのグッズ化を約束してもらった。他のユキフネーゼと絡めなかった。カレーを買う時にレジの外人から50円お釣りを誤魔化された。それを指摘したら逆ギレされた。カレーを食べ終わった2分後に「今から半額です！」のアナウンスが流れた。運営事務局の人、調子乗りすぎだろ、思った。集合写真を隣のブースの人に頼んで撮ってもらったけど、掛け声がズレてたから加子とはだしが目をつむったままで後から確認して2人ごめん！をした。とか、会場での思い出はどれも鮮明。

文フリ終わってからの打ち上げでやっと思舎堂とお酒飲めて嬉しかったり、はだし痩せてなんかかっこ良くなってんな〜としみじみ思ったり、迂回は前日の大喜利ライブでアマツの加納ちゃんを見てるから、その目で俺を見ていることで俺は加納ちゃんと繋がっているんだと実感したり、加子が女子に人気ある理由が分かった、分かったよ！って加子に直接言えなかったり、スコラブが頼んだアスバラガスのベーコン巻きをスコラブが食べられなかったり、今後のなんたる星の事を真面目に語ったりと、ハイライトはたくさんあったんだけど、最後の最後に伊舎堂と電車で2人だけ残る、の図が前回の文フリと同じで笑ってしまった。

あと、恋をしている、のの子、真匿名あたりが、実際にブースに来ていた説、0%じゃないのが凄いいじゃんね。

東京から離れる間際、新宿バスタで井田直さんに直接やめてください号を渡したところで、俺の文フリは終わった。でも、井田さんが「まだ終わらせない！」というテンションでバスを見送ってくれたの、めちゃくちゃ嬉しかったな。

あの日平和島流通センターまでご足労くださった帰りのモノレール、のドア等、でもたれて皆様は加子さんの髪の毛の外ハネや、ナイス害のTシャツのスーパーソフトタッチ感なんぞの新鮮な記憶を触媒に「アア、」「ワタシはなんたる星のみなさんにお会いしたのダワ、」という感慨を持たれていたのかもしれないが、これのひじょうに残念なお報せであることに星、の連中は、単にあなたがあなたのPCを立ち上げたTwitterの今・これを読んでいらっしゃる時間帯のそこのみにて猫や男性用パンツの形でしか存在しない言語発信能力搭載済有機化合物ではない。ので、あの日「なんたる星」ブースにて〈アリガトウゴザイマシタ〉に〈ソチラハオ子サンデスカ・・〉、等のやり取りを行った者たち、はあくまでもそのフラミンゴやチャリらが現世（げんせい）へと一時的に降り立つためにダスキン・レントオールされた「動く人型の人」であり、彼ら彼女らは別の日曜日、文学とはまったく関係のないこと（ビリヤードのマッセ）をしている若者たちです。僕以外はね。僕はまぎれもない伊舎堂、であるためこのレポート文をこうして書くことができるんですがほかの人たちの書いたものは、あれは。嘘とまでは言わないにしてもレポート、とはまた違った形での〈アリガトウゴザイマシタ〉なんですねえ。僕の書くものだけが真実ですし、それはこれからもそうであり続けることなんです。その点の確認を。取り急ぎ。

しかしまあレポート文についてというよりもこれは書き物、ひいてはその細分ジャンルである短歌、においても言えている、ことであるのかもしれないですね。短歌は、そして今回の「短歌やめてください号」は、あらゆる意味においての〈アリガトウゴザイマシタ〉の変奏です。様々なメールにて短歌が届きましたが、実際に送信本文中で言っていたのも含めてみんなが〈アリガトウゴザイマシタ〉の迷い子たちでありました。ある者の〈アリガトウゴザイマシタ〉は温泉旅行先の旅室の座椅子で。またある者の〈アリガトウゴザイマシタ〉は沖縄地方の孤独な魂の@ツイートという形で光って、別の〈アリガトウゴザイマシタ〉の網膜で燃えて燃え尽きて燃え残って終わりました。例外なく、これは僕らの〈アリガトウゴザイマシタ〉でさえがそうです。幸いにも時おり、〈アリガトウゴザイマシタ〉は別の所で、その者に、ビリヤードのマッセをさせます。トマトの湯むきをさせます。ペーターベンのポスターと目が合います。引き戸を引きます。ラップをします。ソファを売ります。鳩を驚かします。遅刻をします。ガストをまた見ます。安土桃山城時代に精通します。右折します。左折したあとに。人を傷つけます。時が満ちるまで。涙を流します。遠回りをした自転車の帰り道に。語ります。BBSで。目覚めます。母性に。

簡単な話なんです。

【編集後記】

「短歌やめてください」という言葉を聞いて「短歌とは何なのかを私たちに問いかけている」と感じてしまった人がもし万一いたとしたら、本当にごめんなさい。

僕は意味を考えることが本当に苦手だし、嫌いで、だから極力何にも意味が出ないようにしたいなーなんて思いながら、日々色んなことから逃げているんですが、これもそして今後「なんたる星」が発行するどの刊行物にも大きな意味はないと思います。

例えば僕はいま思いついた言葉を書きますよ。

トロンボーン

全然面白くないですよ。でも、僕の中ではなんたる星は「トロンボーン」をただ連呼しているだけだと思っています。

トロンボーンおろし

さっぱりしましたよ。面白くないですね。これを見て「短歌とは何か」とか思ってたらどうですか？ それはそれで面白いですね。

なぜ、トロンボーンやトロンボーンおろしを僕がここに書いたのかと言えばやはり意味はなく、最初はもっとまじめに書こうとしていたんですが飽きたというバックボーンがあって、あっバックボーンはとでもトロンボーンに似ていますが、あっでもやっぱり全然面白くありませんね。

どうかどうか「なんたる星」があなたの意味になりませんように。

ここから祈っています。

2016 5/31 恋をしている

During disappointment, a shop assistant of LOFT was judging an animation of a cat as a rose.

執筆者

迂回 (@ukaian)

はだし (@sunsetsan0)

ナイス書 (@NiceGuuuy)

恋をしている (@yayoikenumai)

スコラブ (@scope_scape)

米田一央 (@sawayakanai)

加賀田優子 (@0ccak)

伊舎堂 仁 (@hito_genom)

なんたる星 短歌やめてませんでした号

発行日：2016年6月1日

編集発行人：恋をしている・迂回

(ほぼ迂回さん。恋をしているは神のごとくサボリ)

表紙：スコラブ

企画：伊舎堂 仁

Twitter：@nantaruhoshi

Mail：nantaruhoshi@excite.co.jp